

I. 人間科学基礎科目

(1) 人文社会系科目

「人文社会系科目について」

1. 目的

- 1) 豊かな人間性をもつ真の教養人としての技術者の育成。
- 2) 多様な視点から物事を判断する能力の養成。
- 3) 自ら問題を発見し答えていく姿勢の強化。

2. 目標

1) 知識・理解

- 人間科学基礎科目・人文社会系の各選択必修科目において、多様な人間、社会及び文化に関して理解する。
- 人間科学基礎科目・人文社会系の「職業と社会」において、工学・技術が社会で果たす役割を理解する。
- G（グローバル教養）科目において、グローバル化を背景とした現代社会の技術者に不可欠な多様な文化、価値観についての理解を深める

2) 汎用的技能

- 副専門人間科学科目・上級科目の各選択科目において、問題解決に必要な論理的・批判的思考力、分析力、説明能力を修得する。
- 人間科学基礎科目・人文社会系の「日本語表現法」において、背景や文脈を理解して適切に説明できる日本語能力を修得する。

3) 態度・志向性

- 副専門人間科学科目・上級科目の各選択科目や、副専門人間科学科目・人間科学総合科目のテーマ別リレー講義及びリレーセミナー等において、自己を律する自己管理ができ、自発的な活動ができることを目指す。
- 人間科学基礎科目・人文社会系の「日本語表現法」において、人々と協調でき、個人の能力も発揮できることを目指す。
- G（グローバル教養）科目において多様な文化・価値観に寛容な態度・指向性を身につける

3. 科目の内容

- ・具体的内容については、各科目のシラバスを参照。

4. 履修上の注意

- ・人間科学基礎科目・人文社会系の選択必修科目では、全体を三つの科目群に分け、学科ごとに当該学期の履修科目群が指定される、指定科目群制度を取っている。学期始めに配布される説明プリントを熟読し、各学期の開講日に、履修を希望する授業に必ず出席すること。

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

(月曜1限)

●授業の概要

ほとんど死語となりつつある「教養」概念について、現代、必要とされる内実をもっているか、考察する。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

教養主義、旧制高校、反知性主義

3. 到達目標

- ・特定の問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 大正教養主義
- 第2回 戦前の学制
- 第3回 阿部次郎
- 第4回 三木清
- 第5回 マルクス主義
- 第6回 河合栄治郎
- 第7回 岩波文化と講談社文化
- 第8回 新制大学
- 第9回 唐木順三
- 第10回 大学紛争
- 第11回 実用的教養？
- 第12回 サブカルチャーの位置
- 第13回 教養の退場
- 第14回 現代の教養
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義をよく聴きとって、ノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

筒井清忠『新しい教養を求めて』（中公叢書、2000年）本館
閲覧室1階 002/T-7 研究用図書

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

(月曜2限)

●授業の概要

評論を「読み」かつ「考える」：高校までで「哲学」と名のつく授業を取った者はほとんどいないだろうが、じつは国語教科書の評論の中には、哲学的思考にかかわるものが少なくない。そうした評論を、試験勉強のためでなく、本格的に読みこなすことによって、哲学的思考のやり方を学ぶ。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

哲学的思考、読解

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1～2回 田中美知太郎「モームの哲学練習」
（『古典学徒の信条』）
- 第3～4回 鶴見俊輔「日本の哲学言語」（『記号論集』）
- 第5～6回 湯川秀樹「科学者の創造性」
（筑摩日本文学全集『現代評論集』）
- 第7～9回 会田雄次「ヨーロッパ・ヒューマニズムの限界」（同）
- 第10～13回 中村光夫「近代を疑う」
- 第14回 小浜逸郎「人は何のために生きるのか」
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業時に取り上げた著者の他の評論にも目を通していただくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（金曜2限）

●授業の概要

クリティカル・シンキング入門

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。批判的・論理的思考を身につけることを目指す。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

2. キーワード

クリティカル・シンキング、論理、批判

3. 到達目標

・事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法を身につける。

・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

第1～2回 批判的・創造的思考

第3～5回 推論のやり方

第6回 レポート検討Ⅰ

第7～8回 因果的説明

第9～11回 表現の明確化

第12回 レポート検討Ⅱ

第13～15回 理由の評価

5. 評価の方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

小レポート、期末レポートは単位の必須要件なので、必ず提出すること。以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。松永和紀著『クリティカル・シンキング入門』（ナカニシヤ出版、2005）141.5/F-5

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜1限）

●授業の概要

哲学書はなぜ難解なのか

哲学の本は、なぜ難しいのだろうか。理解のしにくさ、難解さはどこから来るのだろうか。哲学の代表的古典を素材に、文化的差異、翻訳の問題、日本語の問題などを検討しつつ、哲学書の難解さの由来を探る。また、一般に「読むということ」はどのような営みなのかも考えてみたい。それゆえ、哲学の古典を素材に個々の哲学説を解説する講義ではないので注意すること。

●授業の目的

哲学の古典を読むことにより、難解さの由来、また一般に「わかる」とはどういうことか、「読む」とは、どのような行為なのかを理解する。

2. キーワード

西洋哲学、翻訳、日本語

3. 到達目標

・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。

・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

第1回 「分からない」とはどういうことか。

第2回 文化的背景の違い

第3回 翻訳の問題

第4回 日本語の問題

第5回 プラトン『パイドン』（1）

第6回 プラトン『パイドン』（2）

第7回 デカルト『省察』（1）

第8回 デカルト『省察』（2）

第9回 カント『純粋理性批判』（1）

第10回 カント『純粋理性批判』（2）

第11回 ニーチェ『ツァラトゥストラはかく語りき』（1）

第12回 ニーチェ『ツァラトゥストラはかく語りき』（2）

第13回 ハイデガー『存在と時間』（1）

第14回 ハイデガー『存在と時間』（2）

第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

『プラトン全集』（岩波書店）131.3/P-5/1

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜2限）

●授業の概要

ほとんど死滅したかに思われる「知識人」について、その必要性、役割を考察する。

●授業の目的

現代における死の哲学的問題を考察することにより、これらの問題を自らの問題として引き受け、自ら考える能力の獲得を目指す。

2. キーワード

知識人、産業知識人、大衆

3. 到達目標

- ・特定の問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをともに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- | | |
|-------|------------|
| 第1回 | 知識人の登場 |
| 第2～5回 | インテリゲンチヤ |
| 第6回 | 総合雑誌 |
| 第7回 | マルクス主義 |
| 第8回 | 週刊誌の登場 |
| 第9回 | 大宅壮一 |
| 第10回 | テレビの普及 |
| 第11回 | テレビ文化人の台頭 |
| 第12回 | 知識人の溶解 |
| 第13回 | ネット言論 |
| 第14回 | 知識人は絶滅したか？ |
| 第15回 | 試験問題解説 |

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義をよく聴き、ノートを作成すること。また、以下の参考図書、自宅学習に活用すること。

ボタン『知識人』（文庫クセジュ）。

本館 閲覧室1階 文庫 081/Q-1/340 学生用図書。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

倫理学Ⅰ Ethics Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（月曜1限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、イデア、アウグスティヌス、キリスト教、西洋中世哲学、神の国、ローマ国家、神々、運命、神の摂理、ヴァロ

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身につける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 倫理学と哲学（1） |
| 第2回 | 倫理学と哲学（2） |
| 第3回 | 倫理学と哲学（3） |
| 第4回 | 倫理学と哲学（4） |
| 第5回 | 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求 |
| 第6回 | 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求 |
| 第7回 | 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合 |
| 第8回 | 哲学とキリスト教 |
| 第9回 | 西洋中世哲学 |
| 第10回 | アウグスティヌス著『神の国』全22巻についての概説 |
| 第11回 | 『神の国』第1巻—自殺の問題 |
| 第12回 | 『神の国』第2～4巻—神々の問題 |
| 第13回 | 『神の国』第5巻—運命、神の摂理 |
| 第14回 | 『神の国』第6巻—ヴァロ〔ウァルロ〕の説の批判 |
| 第15回 | 前期末試験 |
| 第16回 | 試験の解説、等 |

5. 評価の方法・基準

期末試験（100%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に関連するキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

アウグスティヌス著 / 服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）

132.1/A-8/1『神の国（二）』132.1/A-8/2

●参考書

和辻哲郎著『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）150/W-1/2、アリストテレス著／高田三郎訳『ニコマコス倫理学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-31-2/1,131.4/A-31-2/2、アリストテレス著／山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081/I-1/6319-6322a、宇都宮芳明『訳注・カント『道徳形而上学の基礎づけ』（以文社）134.2/K-19、田中美知太郎著『哲学初歩』（改訂版）（岩波全書）101/T-7、西田幾多郎著『哲学概論』（岩波書店）101/N-2/b、田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書）131.2/T-1、藤沢令夫著『プラトンの哲学』（岩波新書）131.1/F-1、アリストテレス著／出隆訳『形而上学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-30、山田晶著『アウグスティヌス講話』（講談社学術文庫）081/K-4/1186

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学 I Ethics I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、ソクラテス、無知の知、プラトン、イデア、国家、正義、哲学者、哲人統治

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身につける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 ソクラテスの問題—無知の知
- 第9回 ソクラテスの問題—よく生きる
- 第10回 プラトン著『国家』第1～4巻の要旨
- 第11回 プラトン著『国家』第5巻
—男女両性における同一の職務と同一の教育
- 第12回 プラトン著『国家』第5巻
—国の守護者たちの間での妻女と子供の共有
- 第13回 プラトン著『国家』第5巻—哲学者による国家統治
- 第14回 プラトン著『国家』第5巻—「哲学者」の規定
- 第15回 前期末試験
- 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に関連するキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

プラトン著／藤沢令夫訳『国家（上）』（岩波文庫）131.3/

P-30-2/1

●参考書

和辻哲郎著『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）150/W-1/2、アリストテレス著／高田三郎訳『ニコマコス倫理学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-31-2/1, 131.4/A-31-2/2 アリストテレス著／山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081/I-1/6319-6322a、宇都宮芳明『訳注・カント『道徳形而上学の基礎づけ』（以文社）134.2/K-19、田中美知太郎著『哲学初歩』（改訂版）（岩波全書）101/T-7、西田幾多郎著『哲学概論』（岩波書店）101/N-2/b、田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書）131.2/T-1、藤沢令夫著『プラトンの哲学』（岩波新書）131.1/F-1、アリストテレス著／出隆訳『形而上学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-30

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅱ Ethics Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（月曜1限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、イデア、アウグスティヌス、キリスト教、西洋中世哲学、神の国、ローマ国家、神々、運命、神の摂理、ヴァロ

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身につける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 キリスト教と哲学
- 第9回 西洋中世哲学
- 第10回 アウグスティヌス著『神の国』全22巻についての概説
- 第11回 『神の国』第1巻—自殺の問題
- 第12回 『神の国』第2～5巻—キリスト教の神とローマの神々
- 第13回 『神の国』第6巻—ヴァロ〔ウァルロ〕の説の批判（1）
- 第14回 『神の国』第7巻—ヴァロの説の批判（2）
- 第15回 後期末試験
- 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に関連するキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

アウグスティヌス著／服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）

132.1/A-8/1『神の国（二）』132.1/A-8/2

●参考書

和辻哲郎著『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）150/W-1/2、アリストテレス著／高田三郎訳『ニコマコス倫理学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-31-2/1、131.4/A-31-2/2、アリストテレス著／山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081/I-1/6319-6322a、宇都宮芳明『訳注・カント『道徳形而上学の基礎づけ』（以文社）134.2/K-19、田中美知太郎著『哲学初歩』（改訂版）（岩波全書）101/T-7、西田幾多郎著『哲学概論』（岩波書店）101/N-2/b、田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書）131.2/T-1、藤沢令夫著『プラトンの哲学』（岩波新書）131.1/F-1、アリストテレス著／出隆訳『形而上学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-30、山田晶著『アウグスティヌス講話』（講談社学術文庫）081/K-4/1186

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅱ Ethics Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、ソクラテス、無知の知、プラトン、イデア、国家、正義、哲学者、哲人統治

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身につける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 ソクラテスの問題—無知の知
- 第9回 ソクラテスの問題—よく生きる
- 第10回 プラトン著『国家』第1～4巻の要旨
- 第11回 『国家』第5巻の要旨
- 第12回 『国家』第6巻—「哲学」のための弁明
- 第13回 『国家』第6巻—「善」のイデア、太陽の比喩
- 第14回 『国家』第6巻—線分の比喩
- 第15回 後期末試験
- 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に関連するキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

プラトン著／藤沢令夫訳『国家（上）』（岩波文庫）131.3/P-30-2/1（改版）『国家（下）』（岩波文庫）131.3/P-30/2（初版）

●参考書

和辻哲郎著『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）150/W-1/2、アリストテレス著／高田三郎訳『ニコマコス倫理学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-31-2/1、131.4/A-31-2/2、アリストテレス著／山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081/I-1/6319-6322a、宇都宮芳明『訳注・カント『道徳形而上学の基礎づけ』（以文社）134.2/K-19、田中美知太郎著『哲学初歩』（改訂版）（岩波全書）101/T-7、西田幾多郎著『哲学概論』（岩波書店）101/N-2/b、田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書）131.2/T-1、藤沢令夫著『プラトンの哲学』（岩波新書）131.1/F-1、アリストテレス著／出隆訳『形而上学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-30

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

歴史学Ⅰ History I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 渡邊 裕一

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

森林破壊や温暖化、異常気象、あるいは食糧・エネルギー危機などの環境問題が顕在化し、地球規模での取り組みが模索される一方で、歴史学でも新たに環境史研究が重要な分野として誕生してきた。グローバルな視点で環境の世界史を描く研究に比べ、さまざまな時代・地域に即したローカルな環境史研究の重要性も認識されるようになっている。

●授業の目的

環境史という新たな視座から世界史を捉え直し、自然環境と社会経済との複雑な相互関係を歴史の流れのなかで理解する方法を身につける。さらに環境史や気候史、災害史などの新しい研究成果を紹介し、「環境の世紀」における歴史学の存在意義と可能性について考える。

●授業の位置づけ

本講義では、マクロな視点を重視する。ドイツ語圏の文献・研究を主に参考してヨーロッパの環境史を論じるが、日本、アジア、アメリカの環境史の動向も紹介する。

2. キーワード

環境の世界史、自然環境の利用と保全、気候変動、公害、災害の歴史

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②環境史とは何か？
- ③環境史の時代区分
- ④森林
- ⑤エネルギー
- ⑥土地
- ⑦海、河川、湖沼
- ⑧疫病と人口ーペスト
- ⑨気候ー近世の「小氷期」
- ⑩災害史
- ⑪都市の環境史
- ⑫アメリカ
- ⑬ユーラシア
- ⑭日本
- ⑮まとめ ※受講人数や進度に応じて変更の可能性あり

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。まとめとして小レポートを行う。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。授業中には、資料の読み取りや意見の提示を課題として行う。

●成績評価

小レポート 40%
 期末テスト 60%

6. 履修上の注意事項

第一回目の授業で注意点を述べます。授業中に紹介する図書や文献を参考にし、自ら積極的に理解を深めることに努めてください。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業の前には、必ず前回のノートを見直し、全体の流れを把握することに努めてください。

8. 教科書・参考書

参考文献

ヨアヒム・ラートカウ『自然と権力ー環境の世界史』みすず書房、2012年。ISBN: 9784622076698

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。

(E-mail: schembart10@gmail.com)

歴史学 I History I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 宮浦 崇

1. 概要

（水曜 5 限）

●授業の背景

グローバル化が進む現代にあって、自らの暮らす「国」「地域」についての歴史的な知識を持っていること、および自らの見解を交えて話題化できることは、グローバルなコミュニケーションを促進する上で重要なだけでなく、世界の中に自分自身を位置付ける際の重要な素材を獲得することでもある。本講義では、日本の近代化の歴史の変遷を追う。現代の諸課題を考察する際の基盤として存在する歴史的前提を確認する作業でもある。

●授業の目的

この授業では、歴史的な観点から、日本の明治維新前後から太平洋戦争敗戦前後までの期間の事象について広く取り扱う。日本の「近代化」のプロセスを概観し、各々考察を加えることを通じて、現在我々が生きる時代の諸課題との関連性や、世界的な視野で日本を位置付ける際の素材を受講者が獲得することを目的としている。

●授業の位置づけ

本授業は「歴史」という素材を通して、調べものや発表を取り入れながら、自分自身で問題探求できるような力をつけることができる。また、世界的な近代化の流れの中に日本の近代化を位置付けることで、グローバルな歴史的世界観の獲得に寄与する。将来的な視野の広がり、キャリアにつながる持続的な学習の力をつけることができる。

2. キーワード

日本近代史、社会政策、地域の歴史、殖産興業

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。
- ④グローバルな歴史観・世界観を身につける。
- ⑤調査学習により自律的・持続的学習の力をつける。

4. 授業計画

- ①受講にあたってのガイダンス、講義の全体像について
- ②「近代」について考える（1）「近代」とは「近代化」とは
- ③「近代」について考える（2）世界の中の「日本」の位置
- ④「翻訳」を通しての知識移入（1）
- ⑤「翻訳」を通しての知識移入（2）
- ⑥明治・大正期の政治・経済・文化（1）
- ⑦明治・大正期の政治・経済・文化（2）
- ⑧明治・大正期の政治・経済・文化（3）
- ⑨殖産興業と北部福岡地域（1）
- ⑩殖産興業と北部福岡地域（2）
- ⑪日本の近代化と九工大の歴史
- ⑫昭和（戦前期）の政治・経済・文化（1）
- ⑬昭和（戦前期）の政治・経済・文化（2）
- ⑭昭和（戦前期）の政治・経済・文化（3）
- ⑮講義総括 ※受講人数や進度に応じて変更することがあります。

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式と受講者同士のディスカッション形式の混合で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。Moodle等のオンラインシステムの利用をすることがあるが、利用に際しては説明を行う。授業内課題の作成や、確認テストを実施することがある。

●成績評価

- 小課題・発表等 30%
中間レポート 20%

期末テスト 50%

6. 履修上の注意事項

特定の教科書は使用しない。配布資料等は可能な限りオンライン（電子媒体）で提供するので、履修にあたっては、Moodle等のコースツールを使用する。使用にあたってはガイダンスをおこなう。

授業は講義形式とグループ（あるいは2、3人）の対話形式でのワークの混合形式で実施するため、授業教室の変更が発生することがある。掲示やオンラインツールの連絡には注意すること。

また文献等の調査を必要とするので、図書館での調査や資料講読（ライブラリーリサーチ）について取り上げる時間を設ける。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前の配布資料はかならず一読の上で授業に出席すること。またオンラインツール等によって授業のキーワード提示や事前の予習の指示をおこなった場合、事前にある程度のリサーチをおこなうこと。それら前提に授業を進行することがある。

8. 教科書・参考書

参考文献

柳文章『翻訳語成立事情』岩波書店、1982年。081/I-2-3/189

9. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

rekishiq@aol.com

歴史学Ⅱ History Ⅱ

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:後期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 渡邊 裕一

1. 概要

(月曜1・2限)

●授業の背景

かつて人々の暮らしは木材に囲まれていた。建築材や様々な製品の素材であるだけでなく、毎日の暖房や料理にも薪炭は欠かせなかった。石炭が普及する産業革命以前には、木材こそが主要エネルギー源であり、木材はまさに近代以前の「中心資源」であった。木材および森林の歴史を通じて、エネルギー転換や素材加工の歴史、さらに森林資源の利用と保全、自然環境と社会経済の相互関係を見ていきたい。

●授業の目的

身近にある「モノ」から世界史のダイナミズムを理解する。また、具体的な地域・時代の枠組みを設定したケース・スタディを通じて、歴史学の基本的な考え方や方法、史料の読み方、専門的な歴史学の論述方法を学ぶ。

●授業の位置づけ

本講義はヨーロッパ中世から近代までを主な対象とするが、比較考察のために日本やアジアの事例も取り上げる。また、「ものづくり」という観点から、ドイツ語圏における林業や手工業のマイスター制度の歴史にも触れたい。

2. キーワード

モノの歴史学、森林、木材、エネルギー、中近世ヨーロッパ

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②中世ヨーロッパの物質文化(1)
- ③中世ヨーロッパの物質文化(2)
- ④中世の森林利用
- ⑤都市の勃興と木材需要
- ⑥ケース・スタディ(1):都市の森林政策—ニュルンベルク
- ⑦ケース・スタディ(2):都市の森林政策—フライベルク
- ⑧16世紀のヨーロッパ
- ⑨ケース・スタディ(3):都市の森林政策—アウクスブルク
- ⑩ケース・スタディ(4):都市の森林政策—アウクスブルク
- ⑪ケース・スタディ(5):領邦国家の森林政策—バイエルン
- ⑫ケース・スタディ(6):領邦国家の森林政策—プロイセン
- ⑬18~19世紀の「木材不足」論争
- ⑭ドイツ林業の歴史—「持続可能性」の生みの親?
- ⑮まとめ ※受講人数や進度に応じて変更の可能性があります

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。まとめとして小レポートを行う。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。授業中には、資料の読み取りや意見の提示を課題として行う。

●成績評価

小レポート 40%
 期末テスト 60%

6. 履修上の注意事項

第一回目の授業で注意点を述べます。授業中に紹介する図書や文献を参考にし、自ら積極的に理解を深めることに努めてください。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

授業の前には、必ず前回のノートを見直し、全体の流れを把握することに努めてください。

8. 教科書・参考書

参考文献

堀越宏一『ヨーロッパの中世⑤ ものと技術の弁証法』岩波書店、2009年。ISBN: 9784000263276
 ヨアヒム・ラートカウ『木材と文明』築地書館、2013年。
 657/R-2

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。

(E-mail: schembart10@gmail.com)

文学Ⅰ Literature Ⅰ

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 荻原 桂子

1. 概要

(月曜1・2限)

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と生きる力を高める。読書には、自分をつくるという働きのほかに、自分の魂に共鳴する他者を自分のなかにもつという働きもある。読書を通じて、自分を客観的にみるという視点がうまれるのである。自分の主観から少し離れて、別の視点から自分を見てみるという客観的な視点をもつことができるようになる。自分の主観とは独立した他者の意見に接することで、自分に距離をもって接することができるようになる。こうした行為の経過が、焦げ付いた状況から自分を解放してくれる。授業では、「文学」と題して、考えながら読む古典読みに焦点をあわせ、文学作品を読んでみることにする。ここでいう古典とは、時間や空間の変遷にも色褪せず、作品の魅力を発揮するものである。

●授業の位置づけ

12回に分けて文学作品を輪読し、文学作品の読解力をつけ、作品に描かれたものごとの理解力を深め、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

文体論・物語論・テーマ論

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4. 文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

4. 授業計画

- 第1回 授業の説明。文学の言語表現について
 第2回 村上春樹『ふわふわ』
 第3回 新美南吉『ごんぎつね』
 第4回 宮沢賢治『やまなし』
 第5回 宮沢賢治『オツベルと象』
 第6回 太宰治『走れメロス』
 第7回 魯迅『故郷』
 第8回 森鷗外『舞姫』
 第9回 樋口一葉『たけくらべ』
 第10回 夏目漱石『こころ』
 第11回 芥川龍之介『羅生門』
 第12回 宮沢賢治『永訣の朝』
 第13回 中島敦『山月記』
 第14回 安部公房『赤い繭』
 第15回 試験
 第16回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験(80%)出席および授業への積極的態度状況(20%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

毎回出席を取ることで、遅れずに着席すること。教科書で取り上げる作品は抜粋なので、授業後、各自で作品全体をなるべく読むこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

予習として教科書の輪読があるので、読めない漢字を調べてお

く。復習として全文が掲載されていない作品については全文を読む。

8. 教科書・参考書

●教科書

『国語教科書を読む』花書院

●参考書

授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日昼休み

備考

九州女子大学人間科学部荻原研究室 (ogihara@kwuc.ac.jp)

文学Ⅱ Literature Ⅱ

対象学科(コース): 全学科(人間科学科目) 学年: 1・2年次

学期: 後期 単位区分: 選択必修 単位数: 2単位

担当教員名 荻原 桂子

1. 概要

(月曜1・2限)

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と思考力を高める。

●授業の位置付け

毎回、宮沢賢治の作品を輪読し、作品の読解力をつけ、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

読解力・思考力・表現力

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4. 文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

4. 授業計画

第1回 授業の説明。文学の言語表現について

第2回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(一)

第3回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(二)

第4回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(三)

第5回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(四)

第6回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(五)

第7回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(六)

第8回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(七)

第9回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(八)

第10回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(一)

第11回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(二)

第12回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(三)

第13回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(四)

第14回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(五)

第15回 試験

第16回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験(80%)出席および授業への積極的態度(20%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

毎回出席を取るため、遅れずに着席すること。授業で紹介した文学作品をなるべくたくさん読むこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

予習として教科書の輪読があるので、読めない感じを調べておく。復習として全文が掲載されていない作品については全文を読む。

8. 教科書・参考書

●教科書

『教室の中の宮沢賢治』(花書院)

●参考書

授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日昼休み

備考

九州女子大学人間科学部荻原研究室 (ogihara@kwuc.ac.jp)

心理学Ⅰ Psychology I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

(月曜1限)

●授業の目的

さまざまな心理的問題を取り上げ、その現状、原因や背景について講義し、私達がそれらの問題にどのように対応したらよいかを共に考えながら学ぶことを目的とする。

●授業の位置づけ

大学生が属する青年期は、「もはや子どもではないが、まだ大人ではない」という構造のあいまいな境界性を特徴とする時期である。そのため、青年期はライフサイクルの中でもっとも心理的混乱が生じやすい時期とされている。メンタルヘルスに関する正しい知識を身につけ、健やかな生活を送る基盤作りを目指す。

2. キーワード

発達、人格、臨床心理学、社会心理学

3. 到達目標

①自己と他者に対する理解を深め、人間全般に対する関心を持つことができる。

②心の問題についての知識を深め、自分自身のメンタルヘルスに関心を持つことができる。

4. 授業計画

1回 オリエンテーション・心の健康とは？

2回 青年期を生きる①

3回 青年期を生きる②

4回 青年期を生きる③

5回 ストレス

6回 心身症

7回 神経症

8回 人格障害（境界例）

9回 うつ病

10回 統合失調症

11回 その他の精神病理①

12回 その他の精神病理②

13回 心の健康を保つために①

14回 心の健康を保つために②

15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

試験 80%、レポート 20%で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

榎本博明著『はじめてふれる心理学』（2013）サイエンス社
140/E-7/2 第2版

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著『心とかかわる臨床心理
第2版』（2006）ナカニシヤ出版 146/K-8/2

9. オフィスアワー

月曜日4限目

心理学Ⅰ Psychology I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

(金曜2限)

●授業の目的

さまざまな心理的問題を取り上げ、その現状、原因や背景について講義し、私たちがそれらの問題にどのように対応したらよいかを共に考えながら学ぶことを目的とする。

●授業の位置づけ

大学生が属する青年期は、「もはや子どもではないが、まだ大人ではない」という構造のあいまいな境界性を特徴とする時期である。そのため、青年期はライフサイクルの中でもっとも心理的混乱が生じやすい時期とされている。メンタルヘルスに関する正しい知識を身につけ、健やかな生活を送る基盤作りを目指す。

2. キーワード

発達、人格、臨床心理学、社会心理学

3. 到達目標

①自己と他者に対する理解を深め、人間全般に対する関心を持つことができる。

②心の問題についての知識を深め、自分自身のメンタルヘルスに関心を持つことができる。

4. 授業計画

1回 オリエンテーション・心の健康とは？

2回 青年期を生きる①

3回 青年期を生きる②

4回 青年期を生きる③

5回 ストレス

6回 心身症

7回 神経症

8回 人格障害（境界例）

9回 うつ病

10回 統合失調症

11回 その他の精神病理①

12回 その他の精神病理②

13回 心の健康を保つために①

14回 心の健康を保つために②

15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

試験 40%、レポート 60%で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

榎本博明著『はじめてふれる心理学』（2013）サイエンス社
140/E-7/2 第2版

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著『心とかかわる臨床心理
第2版』（2006）ナカニシヤ出版 146/K-8/2

9. オフィスアワー

月曜日4限目

心理学Ⅱ Psychology Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の目的

性格が、内的要因・外的要因・自己形成の要因など、さまざまに影響し合って作られ変化していくことを知り、自分や他者に対しての理解を深める。

●授業の位置づけ

自分らしさはどのように作られているのだろうか。はじめに代表的な理論を通して、性格に関する基礎的な知識を学ぶ。また、他者との関わり、文化との交わりがどのように自分らしさに影響を及ぼしているのかについて、身近な事象を取り上げ体験的な理解を促す。

2. キーワード

性格、心理検査、人間関係、文化、性

3. 到達目標

- ①自分の性格について自己理解を深めることができる。
- ②自分の周りの人について理解を深めることができる。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 性格理解の方法
- 3回 性格に関する諸理論
- 4回 人格検査
- 5回 性格の形成要因
- 6回 ライフサイクル
- 7回 親子・家族関係
- 8回 さまざまな人間関係
- 9回 コミュニケーションに現れる性格
- 10回 性格の変化①
- 11回 性格の変化②
- 12回 文化と性格①
- 13回 文化と性格②
- 14回 性役割
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

試験 80%、レポート 20%で評価する。
 60点以上で合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

榎本博明『はじめてふれる心理学 第2版』（2013）サイエンス社 140/E-7/2

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊共著『性格心理学への招待 改訂版』（2003）サイエンス社 141.9/T-12/2

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 4限目

教育学Ⅰ Pedagogy Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

（月曜2限）

●授業の目的

家族と子どもに焦点を合わせる。子どもにとって家族とは決して情愛の場のみではない。そもそも、「子をなす」という点からして、繰り返される中絶と日進月歩で進歩する生殖技術に象徴されるように、現代社会では様々な価値観が交錯している。また、たとえこの世に生まれ落ちたとしても、児童虐待や貧困によって生命・身体が危機にさらされる子どもも後を絶たない。

さらに、こうしたミクロな問題だけでなく、少子化や家庭の経済格差、家族政策など、家族と子どもはマクロな社会問題でもある。本講義では、こうした諸事情に焦点を合わせ、現代社会における家族と子どもの諸問題について講義する。

●授業の位置づけ

本講義では、臨床社会学という立場から家族と子どもの問題について講義する。臨床の知は、科学の知に対して、現場への参与や解決に資する実践性を重視するところにその特徴があるが、本講義でもこうした立場に則り、アクチュアルな事例を紹介していく。同時に、単純な因果論や責任論、対策論に帰することなく、教育問題や社会問題そのものが生成していく過程に、構築主義の観点から迫っていく。

2. キーワード

中絶、生殖技術、少子化、児童虐待、格差、貧困、家族政策

3. 到達目標

- ①現代日本の家族と子どもの問題に関する理解を深める。
- ②問題そのものが生成する過程についても理解を深め、通俗的な言説を相対化する視点を得る。
- ③中間テスト及びレポート課題を通して、文章表現能力を高める。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 胎児とは何者なのか？
- 3回 生殖技術のポリティクス
- 4回 子どもが減って何が悪い！
- 5回 児童虐待論Ⅰ
- 6回 児童虐待論Ⅱ
- 7回 児童虐待Ⅱ論Ⅲ
- 8回 中間テスト
- 9回 家庭教育と格差社会
- 10回 子どもの貧困Ⅰ
- 11回 子どもの貧困Ⅱ
- 12回 現代の家族政策
- 13回 ワーク・ライフ・バランス
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%

期末レポート 50%

レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①開講期間中に下記参考文献を一読すること。
- ②子ども問題に関する最新の動向を把握するため、講義期間中には新聞等を講読すること。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

- 増田雅暢『これでいいのか少子化対策』ミネルヴァ書房 334.3/M-7
- 上野加代子ほか『児童虐待のポリティクス』明石書店 367.6/U-3
- 阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波書店 081/I-2-4/1157-2

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ Pedagogy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

（月曜2限）

●授業の目的

近年、子どもの位置づけが大きく変貌しつつある。そもそも子どもとは決して自明の存在ではなく、歴史的な過程の中で構築されてきた存在である。近代以降我々は、その小さな外観をした人間に愛着を抱き、保護や教育という営みを連綿となしてきた。ところが、近年、子どもにまつわる保護や権利、責任、自由といった考え方、また子どもそのものに対する考え方が大きく変動している。本講義では、こうした子ども観の揺らぎについて概観するとともに、それがどういった社会的背景から生成しているのか探求する。

●授業の位置付け

はじめに、西洋や日本において子どもが生成してくる過程そのものについて講義する。その上で、子どもの権利条約、子どもとセクシュアリティを巡る問題などアクチュアルな事例を取り上げ、子どもの権利や責任、自由、自己決定権といった概念について講義する。

2. キーワード

子ども観、日本国憲法、子どもの権利条約、自己決定権

3. 到達目標

- ①子どもの相対性・構築性について理解すること。
- ②自由や責任、権利、自己決定権といった諸概念について理解を深めること。
- ③自分の意見を的確に表現できるようにすること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1回 ガイダンス
- 2回 子どもの権利条約
- 3回 校則問題
- 4回 公教育と宗教
- 5回 法の下での平等と教育
- 6回 内申書開示請求事件
- 7回 教育権論争
- 8回 中間テスト
- 9回 体罰
- 10回 学校事故
- 11回 いじめ自殺
- 12回 淫行規制
- 13回 メディア規制
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%

期末レポート 50%

レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①開講期間中に下記参考文献を一読すること。
- ②子ども問題に関する最新の動向を把握するため、講義期間中には新聞等を講読すること。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

東野充成『子ども観の社会学』大学教育出版 367.6/H-3

佐々木幸寿他『憲法と教育』学文社 373.2/S-8

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

法学Ⅰ Introduction to Japanese Law I

対象学科(コース): 全学科(人間科学科目) 学年: 1・2 年次

学期: 前期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位

担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

(月曜1・2限)

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の中で、特に財産取引に関する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

社会生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、社会の一員として要求される素養を身につけ、社会における人間関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

2. キーワード

規範、秩序、権利、責任、救済

3. 到達目標

①日常生活における取引関係を規律する法の存在や仕組みを知る。

②法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得する。

③社会における人間関係の有るべき姿を考えることができるようになる。

4. 授業計画

第1回 法学を学ぶ意味、法の世界観

第2回 法律とは何か、判例とは何か

第3回 法源、主要法典、法適用の原則を知る。

第4回 法律の解釈の仕方を知る①—解釈の方法

第5回 法律の解釈の仕方を知る②—解釈技術

第6回 私法入門—民法の指導原理

第7回 民法上の権利

第8回 権利の限界—私権の公共性

第9回 権利の担い手としての資格①—権利能力

第10回 権利の担い手としての資格②—制限行為能力

第11回 権利の対象となる財産

第12回 取引行為と法①—取引行為の有効要件

第13回 取引行為と法②—無効となる取引

第14回 取引行為と法③—取り消すことができる取引

第15回 試験

第16回 解説・まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果(100%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義には毎回出席すること。講義内容を十分理解するために、講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしてみてください。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

事前に簡単なレジュメを配布しますので、教科書の該当部分を読んで講義に参加してください。上記「履修上の注意事項」記載のとおり、講義後のノートづくりを通じて理解を深めてください。

8. 教科書・参考書

●教科書

1) 五十嵐 清著 私法入門 [改訂3版] 有斐閣 324/I-2/3

2) 石川 他 編集代表『法学六法 '15』信山社 ISBN: 9784797257380

●参考書

1) 中川善之助著 泉 久雄補訂 [補訂版] 法学 日本評論社 321/N-8/2

2) 佐藤幸治他著『法律学入門 [第3版補訂版]』有斐閣 321/S-6/3-2

3) 我妻栄=有泉亨=川井健『民法第2版1総則・物権法』勁草書房 324 ISBN: 4326450738 324/W-3/3-1 (第3版)

4) 川井 健『民法概論1民法総則第3版』有斐閣 324 ISBN: 4641134324 324/K-2/1-4 (第4版)

9. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

法学Ⅱ Introduction to Japanese Law Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の中で、特に家族関係に関する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

家族共同生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、家族の一員として要求される素養を身につけ、家族関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

2. キーワード

規範、婚姻、離婚、親子、相続

3. 到達目標

- ①家族関係を規律する法の存在や仕組みを知る。
- ②法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得する。
- ③家族における人間関係の有るべき姿を考えることができるようになる。

4. 授業計画

- 第1回 法学を学ぶ意味、家族の機能
- 第2回 家族法の独自性、家族法を学ぶための基礎知識
- 第3回 婚約、内縁
- 第4回 婚姻の成立
- 第5回 婚姻の効果①—一般的な効果
- 第6回 婚姻の効果②—財産関係
- 第7回 離婚制度
- 第8回 離婚の成立
- 第9回 離婚の効果
- 第10回 親子関係①—実親子
- 第11回 親子関係②—養親子関係
- 第12回 親権制度、後見制度、扶養の制度
- 第13回 法定相続制度
- 第14回 遺言相続制度
- 第15回 試験
- 第16回 解説・まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義には毎回出席すること。講義内容を十分理解するために、講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしてみてください。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に簡単なレジュメを配布しますので、教科書の該当部分を読んで講義に参加してください。上記「履修上の注意事項」記載のとおり、講義後のノートづくりを通じて理解を深めてください。

8. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 松川正毅著 民法 親族・相続 [第3版] 有斐閣 ISBN: 9784641220300 (第4版)
- 2) 石川他編集代表『法学六法 '15』信山社 ISBN: 9784797257380

●参考書

- 1) 泉久雄著親族法有斐閣 ISBN: 4641038678
- 2) 中川善之助、泉久雄著相続法〔第4版〕有斐閣 ISBN: 4641007748
- 3) 有地亨新版家族法概論＜補訂版＞法律文化社 ISBN: 4589028255
- 4) 川井 健『民法概論 5 親族・相続』有斐閣 ISBN: 9784641134867

9. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

日本国憲法 Constitutional Law in Japan

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期・後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 中村 英樹

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて、日本国憲法の改正論議が盛んになってきている。そうした中、憲法とは何なのか、何のために存在するのかということを理解した上で、国家や社会との向き合い方を考えていく必要がある。

●授業の目的

憲法の存在意義、日本国憲法が定める国家統治の仕組みや、基本的人権保障の目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意義や問題状況を理解することを目的とする。

●授業の位置づけ

憲法に関わるいくつかのトピックを取り上げて、講義を進めていく。その中で、憲法を支える思想や基本的枠組みを理解するとともに、現代社会で生じている諸問題や政治的課題、国際社会における日本の在り方などを、社会の一員として考えていく姿勢を身につけてもらいたい。

2. キーワード

立憲主義、平和主義、民主主義、基本的人権

3. 到達目標

- ①憲法とは何か、それを支える立憲主義とは何かを理解する。
- ②憲法に関する基本的な知識を身につける。
- ③憲法問題を通じて、多様な価値観の共生の在り方について考える力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 憲法とは何か①—国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②—民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①—平和主義の歴史
- 第4回 平和主義②—国連における平和主義
- 第5回 平和主義③—日本国憲法の平和主義
- 第6回 表現の自由とその制限①—表現の自由の保障根拠
- 第7回 表現の自由とその制限②—規制根拠と手段の妥当性
- 第8回 自己決定権とは何か①—憲法上の根拠と内容
- 第9回 自己決定権とは何か②—生命の自己決定権？
- 第10回 議院内閣制①—国会の位置づけ
- 第11回 議院内閣制②—内閣の位置づけ
- 第12回 議院内閣制③—国会と内閣の関係
- 第13回 憲法と死刑制度①—日本国憲法と死刑
- 第14回 憲法と死刑制度②—立法政策の問題としての死刑
- 第15回 全体のまとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

法学に対する予備知識は要求されないが、社会問題や政治問題、国際情勢などに対する幅広い関心を持って受講することが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習よりも復習の方が効果的である。各回ごとに内容を振り返った上で、インターネット等を利用して学習内容に関連する事件や問題を見つけ、自分の中で改めて意味づけなおしたり、友人と議論したりして欲しい。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。適宜、資料を配付する。

●参考書

- 1) 芦部信喜（高橋和之 補訂）『憲法 第5版』（岩波書店、2011年）ISBN: 9784000227810
- 2) 長谷部恭男『憲法 第5版』（新世社、2011年）ISBN: 9784883841684 ISBN: 9784883842186（第6版）
- 3) 安念潤司ほか編著『論点日本国憲法 第2版』（東京法令出版、2014年）ISBN: 9784809063077

9. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付ける。

日本国憲法 Constitutional Law in Japan

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:後期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 中村 英樹

1. 概要

(月曜1・2限)

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて、日本国憲法の改正論議が盛んになってきている。そうした中、憲法とは何なのか、何のために存在するのかということを理解した上で、国家や社会との向き合い方を考えていく必要がある。

●授業の目的

憲法の存在意義、日本国憲法が定める国家統治の仕組みや、基本的人権保障の目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意義や問題状況を理解することを目的とする。

●授業の位置づけ

憲法に関わるいくつかのトピックを取り上げて、講義を進めていく。その中で、憲法を支える思想や基本的枠組みを理解するとともに、現代社会で生じている諸問題や政治的課題、国際社会における日本の在り方などを、社会の一員として考えていく姿勢を身につけてもらいたい。

2. キーワード

立憲主義、平和主義、民主主義、基本的人権

3. 到達目標

- ①憲法とは何か、それを支える立憲主義とは何かを理解する。
- ②憲法に関する基本的な知識を身につける。
- ③憲法問題を通じて、多様な価値観の共生の在り方について考える力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 憲法とは何か①—国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②—民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①—平和主義の歴史
- 第4回 平和主義②—国連における平和主義
- 第5回 平和主義③—日本国憲法の平和主義
- 第6回 表現の自由とその制限①—表現の自由の保障根拠
- 第7回 表現の自由とその制限②—規制根拠と手段の妥当性
- 第8回 自己決定権とは何か①—憲法上の根拠と内容
- 第9回 自己決定権とは何か②—生命の自己決定権?
- 第10回 議院内閣制①—国会の位置づけ
- 第11回 議院内閣制②—内閣の位置づけ
- 第12回 議院内閣制③—国会と内閣の関係
- 第13回 憲法と死刑制度①—日本国憲法と死刑
- 第14回 憲法と死刑制度②—立法政策の問題としての死刑
- 第15回 全体のまとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果(100%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

法学に対する予備知識は要求されないが、社会問題や政治問題、国際情勢などに対する幅広い関心を持って受講することが望ましい。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

予習よりも復習の方が効果的である。各回ごとに内容を振り返った上で、インターネット等を利用して学習内容に関連する事件や問題を見つけ、自分の中で改めて意味づけなおしたり、友人と議論したりして欲しい。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。適宜、資料を配付する。

●参考書

- 1) 芦部信喜(高橋和之 補訂)『憲法 第5版』(岩波書店、2011年) ISBN: 9784000227810
- 2) 長谷部恭男『憲法 第5版』(新世社、2011年) ISBN: 9784883841684 ISBN: 9784883842186 (第6版)
- 3) 安念潤司ほか編著『論点日本国憲法 第2版』(東京法令出版、2014年) ISBN: 9784809063077

9. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付ける。

社会学 I Sociology I

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 森 康司

1. 概要

(月曜1・2限)

●授業の背景

社会をつくりだしているのは私たちである。同時に、私たちの考え方や感じ方も、社会に規定されているともいえる。私たちをとりかこむ「環境」である社会は、多くの場合はそれと意識されることなく、人々に特定の行為をさせたり、行為をさせないように誘導する。

社会学は、こうした社会のとらえがたい影響力を、独自の概念や方法によってとらえようとする学問である。社会学の観点から見れば、私たちは社会的環境から多くを与えられつつ、みずから社会のいろいろな側面を成り立たせていくという、循環的な関係のなかに生きている。

こうした循環的關係を目に見える形で(社会的に)とらえることは、変化の激しい現代社会を生きる上で、なんらかの形で有益な準拠点となるだろう。

●授業の目的

社会学の基本的な考え方について理解し、日常生活で生起する何気ない現象から、現代社会の諸問題まで社会的に解説していく力を身につける。

●授業の位置づけ

これは教養科目であり、かつ単位区分:選択必修科目の一つとして、月曜日1限と2限に開講される。この授業を通して、現代の人間行動と社会についての社会的な知識と分析力をつけることを促す。

2. キーワード

社会規範、社会化、地位と役割、基礎集団と機能集団、官僚制の逆機能、格差社会、記号的消費、少年犯罪、非婚化、草食化の虚実

3. 到達目標

- ①社会的なものの見方・考え方について理解する。
- ②社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会的に解説する力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション:「社会」とは
- 第2回 社会学の歴史
- 第3回 行為論
- 第4回 相互作用論
- 第5回 集団論
- 第6回 官僚制組織
- 第7回 科学的管理法①
- 第8回 科学的管理法②映画『Modern Times』
- 第9回 階級と階層
- 第10回 社会移動
- 第11回 消費社会論①
- 第12回 消費社会論②
- 第13回 現代若者論①
- 第14回 現代若者論②
- 第15回 現代若者論③

5. 評価の方法・基準

原則として、期末試験(80%)、出席状況(15%)、その他受講態度など(5%)で評価する。

6. 履修上の注意事項

社会現象や現代人の生き方に関心がある人は、「社会科」が苦手であったり、「社会科」の知識がなくても十分参加できる学問である。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

社会学の入門書を一冊は探して読んでみる。また、配布プリントの復習を行うこと。

8. 教科書・参考書

適宜、プリントを配布する。

9. オフィスアワー

質問等は講義中、講義終了後に受け付ける。

備考

内容は社会情勢の変化、受講者数、受講生の希望などによって変更する場合がある。

社会学 I Sociology I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 山本 努

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

近代化、産業化によって、我々の暮らしは大きく変化した。このように変化した「現代社会」を解説するのが社会学という学問の営みである。いかにいえば、社会学は「私たちがなぜ、いまあるように振る舞い、いまあるように暮らすのか」について考える学問である。社会学を学ぶことを通して、「社会」という問題領域の面白さについて気づいてほしい。

●授業の目的

社会学の入門的考え方が理解できるようになることを目指す。特に「家族」や「地域」などの身近な生活領域から、現代社会を考えるための基礎知識を身につける。

●授業の位置づけ

これは金曜日の 2 限に開講される選択必修であるが、「社会学」の初級・中級レベルとして位置づけられる。

2. キーワード

行為と構造、社会と文化、集団と組織、家族、都市と農村、など

3. 到達目標

- ① 社会学的なものの方・考え方について理解する。
- ② 「行為・構造」「集団・文化」、「家族」「地域社会」「都市化、過疎化」「高齢化、少子化」「近代化、産業化、グローバル化」といったテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③ 現代社会の諸問題を社会学的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

第 1 回 社会学の基本的な考え方の紹介。

第 2 回 文化（1）：

文化とは何か。文化の三次元と文化の定義・本質。

第 3 回 文化（2）：

文化の多様性と共通性。文化のグローバリゼーション。

第 4 回 社会（1）：社会とは。微視的世界と巨視的世界。

第 5 回 社会（2）：制度、社会構造という考え方。

第 6 回 集団（1）：集団とは何か。内集団と外集団。大きな集団と小さな集団。

第 7 回 集団（2）：第一次集団と第二次集団。

第 8 回 家族（1）：人間にとって家族が重要であるという事についてのいくつかの学説。

第 9 回 家族（2）：現代家族の特質、家族類型、家族変動についての基礎知識。

第 10 回 都市（1）：種々の都市概念。都市とは何か。

第 11 回 都市（2）：

日本社会における都市化・産業化をめぐる問題。

第 12 回 農山村（1）：

現代社会における農業・農山村の重要性について。

第 13 回 農山村（2）：過疎農山村の現状と問題

第 14 回 「現代社会」を解説するために：社会学の方法、社会学の視点。

第 15 回 まとめ：授業で取り上げた内容から重点項目を解説する。

5. 評価の方法・基準

期末試験（85%）、出席（15%）で評価する。

100 点満点のうち 60 点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業時間外では講義の内容を整理した上で、適宜紹介する文献を参考にしながら、理解を深める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

・ 授業外学習で読むべき参考文献は教科書に示してあるので、授業中に紹介する。

・ 教科書を用いて授業するので、教科書の当該箇所を使っての復習を求める。

・ 前もって教科書や参考資料を読んでくる必要がある時は、予習の指示を授業にておこなう。

・ その他、適宜、文献を紹介するので、授業外での学習に役立てて欲しい。

8. 教科書・参考書

●教科書

山本努・辻正二・稲月正『現代の社会学的解説：イントロダクション社会学』学文社 361/Y-13

その他については、講義中に紹介する。

9. オフィスアワー

講義中、授業終了後の時間などに質問等は受け付ける。

備考

内容は社会情勢の変化、受講者数、受講生の希望などによって変更する可能性がある。

社会学Ⅱ SociologyⅡ

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次

学期:後期 単位区分:選択必修 単位数:2単位

担当教員名 園田 浩之

1. 概要

(月曜1・2限)

●授業の背景

私たち自身の何気ない行動や意識のありようを、一定の距離をおいて眺めていくやり方にはいくつかのヴァリエーション(選択肢)がある。この講義では「社会」というものを視野に入れることによって、私たちの普段(日常)がどのように見えてくるか、社会学的なものの捉え方(社会学的想像力)と現代社会論の成果を活かしつつ、浮かび上がらせてみようと思う。「社会というものの」リアリティが希薄になり、深刻な揺らぎと危機の中にあるとされる現在こそ、社会学の発想(その独自性と豊かさ)にふれる好機ともいえる。何より重要なのは、社会の「希薄さ」や「揺らぎ」といわれる事柄が、一体、「私」たちの「何」と「どのように」結びついているか、である。

●授業の目的

毎回の講義を、日常をめぐる「別な見方」(より豊かで、柔軟で、批判的な見方)に接する機会と位置付け、その中で社会学の思考法と発想に親しみ、そこから受講者各自の日常を読み解くまなざしを洗練させていくことを目指す。講義では、身近で具体的な事柄を扱いながら、何気ない日常を「複眼的」「批判的」に捉え直し、その奥行きにふれる経験を大切にしたい。本講義では、とくにブーム・流行などの消費文化と、現代人の自己意識の問題を取り上げつつ、身近で具体的な文化・社会現象を考察していく。社会学の目とあわせて、「日常」を再発見し、それぞれの「生の条件」を問い直し、それを別の可能性に向けて開いていく機会になるような講義になればと思う。

●授業の位置づけ

社会学的なものの見方にすでにくらか接していることは望ましいが、「社会学は初めて」という人たちの受講も歓迎する。関連する学習としては、社会学Ⅰ(前期)を中心に、広く人間科学系の講義全般。教育目標は、社会学的なものの見方と思考のセンスを、社会学以外の領域を専攻する(理科系の)受講者に身につけてもらうこと。

2. キーワード

消費文化(ブーム・流行・欲望)、豊かさ、ファッション、現代人の自己意識、社会学的想像力

3. 到達目標

- ①社会学的なものの見方に親しみ、その意義(性能)を理解できるようになること。とりわけ、「日常」への批判的な視点(別の見方/複眼的な見方)の意義を理解できるようにすること。
- ②自己理解を深めつつ、それが他者理解へとつながっていくような思考(と想像力)の回路を受講者各自のうちに開いていくこと(と同時に、普段の生活においてそのような回路を見出しづらい理由・背景についても、社会学の視点から考察できるようにすること)。
- ③不確かで見通し難い「社会の現在」を、身近な事柄との関係においてイメージし、そこに生きる「私」たちの豊かさや空虚さ(あるいは、自由さと不自由さ)の両方に触れる感受性と思考力を涵養すること。

4. 授業計画

- 第1回 社会学を学ぶ/社会学で学ぶ 社会学的想像力に向けて
- 第2回 複眼的思考としての社会学 (あたりまえな日常を問い直す別な見方へ)
- 第3回 消費社会としての現代社会① 消費社会(論)とは何か?
- 第4回 消費社会としての現代社会② 「欲しい」のつくられ方 (ブームと欲望の社会学)
- 第5回 消費社会としての現代社会③ 「豊かな社会」とその空虚さ

- 第6回 ファッションを考える/ファッションから考える① 「着ること」をめぐる社会学のロジックとトピック 自然/文化を超えて
- 第7回 ファッションを考える/ファッションから考える② 「着ること」から考える社会の現在 模倣/個性を超えて
- 第8回 消費する自己/消費される自己(現代人の「自己」をめぐる社会学① 消費社会の中の「私」たち/個性消費・浪費の時代?)
- 第9回 消費する自己/消費される自己(現代人の「自己」をめぐる社会学② モノ語る人々の現在/モノ離れの若者たち)
- 第10回 消費社会の中の身体・自己・他者① 「自分らしさ」の社会学/商品化される個性
- 第11回 消費社会の中の身体・自己・他者② 「美しさ」の社会学/美容整形からダイエットまで
- 第12回 選ぶのは私/選ばれるのも私① 消費社会とアイデンティティの自由
- 第13回 選ぶのは私/選ばれるのも私② 消費社会とアイデンティティの不安
- 第14回 「豊かな」社会の(不)幸せと(不)自由 豊かさのパラドクス
- 第15回 消費社会の果て(外)? 豊かさの中の不安/不安の中の豊かさ

5. 評価の方法・基準

(講義への一定の出席と参加を条件としたうえで)、講義中のコメントペーパー&小レポートなど(10%)、学期末試験(90%)によって評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

何気ない日常(の成り立ち)を好奇心をもって眺めなおす意欲があること、そのための思考法や表現の仕方に関心があることが望ましい(あるいは、そういうセンスのある大人になりたいと考えている、いまはまだそうでない人たちも含む)。

未来の自分の糧になるよう、注意深く話を聞き、資料や文献を丹念に読み、メモやノートをとること。講義という場の外でこそ、「考える」力と、それを「表現する」センスを意識的に磨いて欲しい。考えることは、人をより自由にし、繊細にし、強くもするはずである。そのための機会を、逃さないようにすること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

講義ごとの配布資料(+講義中にとった自身のメモやノート)を、講義内容をふりかえりながら、丁寧に読み返すこと。そのとき改めて「わからないこと」や「質問したいこと」「さらに知りたいこと」などが生じたら、次回の講義で遠慮なく質問して欲しい。次回の講義までにこうした事後学習を行うことは、そのまま有意義な事前学習にもなる(ように、講義をデザインしてある)。

8. 教科書・参考書

テキストは使用しない(講義のための資料を準備し、それを配布する。それにパワーポイントやヴィジュアルな資料を交えつつ、講義を進める)。また、講義で扱う事柄(テーマ)に関して、さらに知りたい、より深く考えたいという人たちに向けて、進行に応じて、手がかりになる文献を紹介していくことができるとも思う。

9. オフィスアワー

質問したいことや確認したいことがあるときは、講義の後に(あるいは講義中にも)、いつでも遠慮なく申し出て欲しい。

社会学Ⅱ Sociology Ⅱ

対象学科（コース）：全学科 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 園田 浩之

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

私たち自身の何気ない行動や意識のありようを、一定の距離をおいて眺めていくやり方はいくつかのヴァリエーション（選択肢）がある。この講義では「社会」というものを視野に入れることによって、私たちの普段（日常）がどのように見えてくるか、社会学的なものの捉え方（社会学的想像力）と現代社会論の成果を活かしつつ、浮かび上がらせてみようと思う。「社会というもの」のリアリティが希薄になり、深刻な揺らぎと危機の中にあるとされる現在こそ、社会学の発想（その独自性と豊かさ）にふれる好機ともいえる。何より重要なのは、社会の「希薄さ」や「揺らぎ」といわれる事柄が、一体、「私」たちの「何」と「どのように」結びついているか、である。

●授業の目的

毎回の講義を、日常をめぐる「別な見方」（より豊かで、柔軟で、批判的な見方）に接する機会と位置付け、その中で社会学の思考法と発想に親しみ、そこから受講者各自の日常を読み解くまなざしを洗練させていくことを目指す。講義では、身近で具体的な事柄を扱いながら、何気ない日常を「複眼的」「批判的」に捉え直し、その奥行きにふれる経験を大切にしたい。本講義では、とりわけ、現代社会における「自己」のありよう（と変容）、アイデンティティの問題、他者とのかかわり（（ディス）コミュニケーション）に関する素材を選び、身のまわりにある具体的な文化現象を取り上げながら、社会の現在を生きる人々（とくに若者）の自由と不自由を描き出してみたい。社会学をつうじた「日常（ふだん）」の再発見によって、それぞれの「生の条件」を問い直し、それを別の可能性に向けて開いていく機会になるような講義になればと思う。

●授業の位置づけ

社会学的なものの見方にすでにいくらか接していることは望ましいが、「社会学は初めて」という人たちの受講も歓迎する。関連する学習としては、社会学Ⅰ（前期）を中心に、広く人間科学系の講義全般。教育目標は、社会学的なものの見方と思考のセンスを、社会学以外の領域を専攻する（理科系の）受講者に身につけてもらうこと。

2. キーワード

社会の現在と自己（アイデンティティ）、ポストモダン（現代）、（ディス）コミュニケーション、生きづらさ、社会学的想像力

3. 到達目標

- ①社会学的なものの見方に親しみ、その意義（性能）を理解できるようになること。とりわけ、「日常」への批判的な視点（別の見方／複眼的な見方）の意義を理解できるようにすること。
- ②自己理解を深めつつ、それが他者理解へとつながっていくような思考（と想像力）の回路を受講者各自のうちに開いていくこと（と同時に、普段の生活においてそのような回路を見出しづらいう理由・背景についても、社会学の視点から考察できるようにすること）。
- ③不確かで見通し難い「社会の現在」を、身近な事柄との関係においてイメージし、そこに生きる「私」たちの豊かさと空虚さ（あるいは、自由さと不自由さ）の両方に触れる感受性と思考力を涵養すること。

4. 授業計画

- 第1回 社会学的想像力のために
- 第2回 あたりまえをみるために
- 第3回 「日常世界」と「私」の成り立ち
- 第4回 現代社会における自己
（アイデンティティをめぐる社会学的な問題①）

- 第5回 現代社会における自己
（アイデンティティをめぐる社会学的な問題②）
- 第6回 多元化し分散する自己
- 第7回 若者のコミュニケーションと社会の現在①
（その現実と日常）
- 第8回 若者のコミュニケーションと社会の現在②
（その豊かさと病理）
- 第9回 若者文化を / から社会学的に考える
（社会意識からの若者論再考①）
- 第10回 若者文化を / から社会学的に考える
（社会意識からの若者論再考②）
- 第11回 ポストモダンの社会と新しい生きづらさ
（不確かな生）①
- 第12回 ポストモダンの社会と新しい生きづらさ
（不可解な他者）②
- 第13回 つながりの不安と過剰
（（ディス）コミュニケーションからみる現代社会①）
- 第14回 つながりの不安と過剰
（（ディス）コミュニケーションからみる現代社会②）
- 第15回 社会学の使いみち（不安と危機の向こう側へ？）

5. 評価の方法・基準

（講義への一定の出席と参加を条件としたうえで）、講義中のコメントペーパー & 小レポートなど（10%）、学期末試験（90%）によって評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

何気ない日常（の成り立ち）を好奇心をもって眺めなおす意欲があること、そのための思考法や表現の仕方に関心があることが望ましい（あるいは、そういうセンスのある大人になりたいと考えている、いまはまだそうでない人たちも含む）。

未来の自分の糧になるよう、注意深く話を聞き、資料や文献を丹念に読み、メモやノートをとること。講義という場の外でこそ、「考える」力と、それを「表現する」センスを意識的に磨いて欲しい。考えることは、人をより自由にし、繊細にし、強くもするはずである。そのための機会を、逃さないようにすること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

講義ごとの配布資料（+講義中にとった自身のメモやノート）を、講義内容をふりかえりながら、丁寧に読み返すこと。そのとき改めて「わからないこと」や「質問したいこと」「さらに知りたいこと」などが生じたら、次回の講義で遠慮なく質問して欲しい。次回の講義までに

こうした事後学習を行うことは、そのまま有意義な事前学習にもなる（ように、講義をデザインしてある）。

8. 教科書・参考書

テキストは使用しない（講義のための資料を準備し、それを配布する。それにパワーポイントやヴィジュアルな資料を交えつつ、講義を進める）。また、講義で扱う事柄（テーマ）に関して、さらに知りたい、より深く考えたいという人たちに向けて、進捗に応じて、手がかりになる文献を紹介していくことができるとも思う。

9. オフィスアワー

質問したいことや確認したいことがあるときは、講義の後に（あるいは講義中にも）、いつでも遠慮なく申し出て欲しい。

経済学 I Economics I

対象学科(コース):全学科 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 古谷 京一

1. 概要

(集中講義)

●授業の目的

ミクロ経済学を学ぶことで、身近な経済活動や具体的な事例から基礎的な経済活動を理解することが可能となります。経済学のベースとなる考え方を理解すると、応用分野の学問の理解に役に立ちます。

●授業の位置付け

日本経済は、バブル崩壊後の困難な経済状況からなかなか脱却することができません。そのような状況下、将来社会人として自立した経済生活を営んでいく際、自分の置かれた経済環境を分析・理解し、対応していくことが重要となります。ミクロ経済学の考え方を理解して自らの行う日常の経済活動を分析・理解するツールとして利用する事が目標となります。

2. キーワード

「ミクロ経済学」、「需要」、「供給」、「市場」、「資源配分」

3. 到達目標

- ①効率的な資源配分メカニズムとしての市場・価格機構(マーケット・メカニズム)の機能に関して理解し、専門用語を習得する。
- ②様々な財・サービスの需要と供給を、家計や企業による合理的な選択行動の意思決定結果として行われる経済活動の行動原理の基本的な枠組みについて理解し、日々の経済活動を分析・判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- | | |
|---------|--------------------------------------------------------|
| 1回 | ガイダンス 講義内容・目標、単位認定・試験方法に関する解説。ガイダンス講義。 |
| 2回～4回 | 市場の理論 1. 完全競争市場について、2. 需要曲線と供給曲線、3. 市場均衡と均衡分析、4. 価格弾力性 |
| 5回～7回 | 家計の理論 1. 無差別曲線、2. 最適消費点、3. 個別需要曲線、4. 家計の理論の応用 |
| 8回 | 中間のまとめ 進行した内容に関して、授業内で中間試験を行う場合がある。 |
| 9回～11回 | 生産の理論 1. 企業の分析、2. 限界生産物逓減の法則、3. 等量曲線、4. 生産の理論の応用 |
| 12回～14回 | 費用の理論 1. 総費用曲線、2. 限界原理、3. 長期の分析 |
| 15回 | まとめ |

5. 評価の方法・基準

出席状況、課題提出と期末試験(あるいはレポート)で評価する。

6. 履修上の注意事項

ガイダンスで指定する教科書の内容に従い講義を進める予定である。その他詳細な注意事項についてはガイダンスにおいて説明する。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

各回に学習したキーワード・宿題・課題などについて復習し、より一層の利用して理解を進めて欲しい。

8. 教科書・参考書

金谷貞男・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』第2版 新世社 2008年 ISBN: 9784883841264
 教科書に従い授業を進めていきます。ただし、理解度に応じ必ずしも予定した講義内容(教科書範囲)に到達するとは限りません。

伊藤元重著『ミクロ経済学』第2版 日本評論社 2003年 331/I-25/2

9. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: furuya_k@tokuyama-u.ac.jp

備考

日常の経済活動の中に本講義の中で学習した理論を生かして、自分の経済活動や社会的経済現象を分析・理解できるようになりましょう。

政治学 I Political Science I

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

(月曜1・2限)

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれら相互のつながりについて、どちらかといえば日本国内に重点を置いて学ぶ。新聞記事・論文や著書(の抜粋)などの比較的読みやすいプリントや視聴覚的な教材を用い、具体的な知識を得るとともに理論的思考(「批判的思考」を含む)の訓練を行なう。一方通行的な授業ではなく、学生諸君の調査・発表(インターネットなども活用)、これをうけた討論などを重んじる。

政治学は民主主義国の市民あるいは社会人にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学I及びIIである。

2. キーワード

政治的象徴、鉄の三角形、ナショナリズム、市民社会、NGO

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 本講義の内容と方式の説明 |
| 第2回 | ことばと政治シンボル操作の問題など。ケース・スタディを含む |
| 第3回 | ことばと政治「言霊」観の問題など。ケース・スタディを含む |
| 第4回 | 「鉄の三角形」の意味と概要 |
| 第5回 | 「鉄の三角形」ケース・スタディ(1) |
| 第6回 | 「鉄の三角形」ケース・スタディ(2) |
| 第7回 | 政官関係・公益法人論など |
| 第8回 | 戦争と政治(1) |
| 第9回 | 戦争と政治(2) |
| 第10回 | 従来の講義の補足と展開 |
| 第11回 | ナショナリズム論(1) |
| 第12回 | ナショナリズム論(2) |
| 第13回 | 市民的实践とNGO |
| 第14回 | 試験 |
| 第15回 | まとめ |

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

期末試験(60%)および小テストの結果(40%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生

き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 12時 - 13時 30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学 I Political Science I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（金曜2限）

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

自由主義、現実主義、政治的責任、保守主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 自由主義と民主主義（1）
- 第4回 自由主義と民主主義（2）
- 第5回 現実主義（1）
- 第6回 現実主義（2）
- 第7回 従来講義の補足と展開
- 第8回 政治的責任（1）
- 第9回 政治的責任（2）
- 第10回 保守主義（1）
- 第11回 保守主義（2）
- 第12回 従来講義の補足と展開
- 第13回 自由テーマ（1）
- 第14回 自由テーマ（2）
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキスト、学生諸君の関心などの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

レポートの結果（100％）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 12時 - 13時 30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（月曜1・2限）

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれらの相互連関について、どちらかといえば国際的な関係や地球大の問題に重点を置いて学ぶ。講義では新聞記事・論文や著書（の抜粋）等の活字資料＝プリントや視聴覚的な教材を活用し、具体的な知識の獲得と理論的思考（「批判的思考」を含む）の訓練を行なう。一方通行的な講義＝筆記ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネット等も活用）、これをうけた討論等を特に重視する。政治学は民主主義国の市民あるいは社会人にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的社会的化、地方自治、国際政治、軍事化、開発独裁、多文化主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 批判的思考について
- 第3回 談合・独占と競争（1）
- 第4回 談合・独占と競争（2）
- 第5回 天下りと天上り
- 第6回 補足と展開
- 第7回 開発と補助金政治
- 第8回 開発と地方自治
- 第9回 「特別会計」
- 第10回 労働と政治
- 第11回 軍事化と平和研究
- 第12回 日常性と政治
- 第13回 補足と展開
- 第14回 試験
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

期末試験（60%）および小テストの結果（40%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学

生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくれるのは当然の前提である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。

講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域研究 I Regional Studies I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との間をあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造に焦点を置く。

2. キーワード

文化相対主義、シンボル論、社会構造、出自理論と縁組理論、構造主義

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるという disposition を身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 「文化」という概念の定義
- 第2回 文化相対主義の問題点
- 第3回 象徴人類学から見た文化の概念
- 第4回 グローバル化を考える1 Hip-Hopの感染力その1
- 第5回 親族の解釈学1－親族分類の多様性、概念整理
- 第6回 親族の解釈学2－普遍的な解釈（親族の代数学）
- 第7回 親族の解釈学3－相対的な解釈
- 第8回 グローバル化を考える2 アイドルの普遍性その1
- 第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」
- 第10回 インセスト・タブーの多様性
- 第11回 インセスト・タブーの存在理由
- 第12回 グローバル化を考える3 ロックの浸透力その1
- 第13回 世界観パート1－構造主義入門：親族の基本構造分析
- 第14回 世界観パート2－構造主義の展開編：神話分析（あるいは「奇妙な言説」の解読法）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（95%）及びレポート（5%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

8. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press. ISBN: 0801411939
- 2) Stephen A. Tyler (ed.) 1969 Cognitive Anthropology., Holt, Rinehart and Winston, inc. ISBN: 0030732557
- 3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion., Cambridge University Press. 389/L-8

9. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究 I Regional Studies I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 1・2 年次
 学期: 前期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位
 担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

(金曜 2 限)

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰 (伝統の新たな発明であるが) やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

東南アジアからタイ王国、ビルマ (ミャンマー) 及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していく。またタイ王国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との闘ぎあいを具体的な映像資料を通して見ること、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造やジェンダーを具体的な事例に即して考察を進める。

2. キーワード

親族名称、シンボル論、贈与交換と市場交換、ジェンダー、アナロジー

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるという disposition を身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 「文化」という概念の定義
- 第2回 文化相対主義の問題点
- 第3回 象徴人類学から見た文化の概念
- 第4回 グローバル化を考える 1 Hip-Hop の感染力その 1
- 第5回 親族の解釈学 1 親族分類の多様性、概念整理
- 第6回 親族の解釈学 2 普遍的な解釈 (親族の代数学)
- 第7回 親族の解釈学 3 相対的な解釈
- 第8回 グローバル化を考える 2 アイドルの普遍性その 1
- 第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」
- 第10回 インセスト・タブーの多様性
- 第11回 インセスト・タブーの存在理由
- 第12回 グローバル化を考える 3 ロックの浸透力その 1
- 第13回 世界観パート 1 構造主義入門: 親族の基本構造分析
- 第14回 世界観パート 2 構造主義の展開編: 神話分析 (あるいは「奇妙な言説」の解読法)
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験 (95%) 及びレポート (5%) で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

8. 教科書・参考書

●教科書 特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1967. The Curse of Souw. Cornell University Press.. 389.7/W-1
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) E. R. Leach 1995 『高地ビルマの政治体系』 (訳: 関本照夫) 弘文堂. ISBN: 4335051131
- 4) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press. 367.2/S-15

9. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

(月曜1・2限)

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

メラネシアからパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する

定評のある複数の民族誌を詳細に解説していき、我々から見ると一見奇妙に見える対象社会の生活世界を分析することで、むしろ我々自身の生活世界を客観化することを目指す。また世界各地の均一化とローカル化との聞きあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。後期は Roy Wagner が創始したフラクタル人類学の観点から神話・儀礼に焦点をおいて講義を行う。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、フラクタル、ホログラフィ

3. 到達目標

- ①相対主義的に考える disposition を身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 地域研究と文化人類学：方法論の解説
- 第2回 文化の概念：その多様性と解釈
- 第3回 象徴人類学の解説：シンボルとは何か
- 第4回 グローバル化を考える：部族的な社会に生きる人々の映像を見る
- 第5回 フラクタルの視点からの地域分析：フラクタル及びホログラフィという隠喩の使用について。ニューギニア・ハーゲン地域のビッグマンの概念の分析
- 第6回 ニューギニア・Iqwaye 族の生活世界：二進法的世界を生きること。
- 第7回 ニューギニア・Iqwaye 族の生活世界：世界認識の枠組みとしての神話とその神話の実現としての Ate 結婚。
- 第8回 グローバル化を考える 4 Hip-Hop の感染力その 2
- 第9回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：ダリビ族に関する概況解説。
- 第10回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：文化の弁証法—ホログラフィックな世界観
- 第11回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：生物学的な関係性を前提としない親族構築
- 第12回 グローバル化を考える 5 ロックの浸透力その 2

第13回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：神話と Habu 儀礼—ホログラフィックな世界製作。

第14回 フラクタルの観点からの他者理解が気づかせてくれるものについて。

第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（95%）及びレポート（5%）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

8. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press.389/W-3
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press. 367.2/S-15

9. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

メラネシアからパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していき、我々から見ると一見奇妙に見える対象社会の生活世界を分析することで、むしろ我々自身の生活世界を客観化することを目指す。また世界各地の均一化とローカル化との聞きあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。後期はRoy Wagnerが創始したフラクタル人類学の観点から神話・儀礼に焦点をおいて講義を行う。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、フラクタル、ホログラフィ

3. 到達目標

- ①相対主義的に考える disposition を身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 地域研究と文化人類学：方法論の解説
- 第2回 文化の概念：その多様性と解釈
- 第3回 象徴人類学の解説：シンボルとは何か
- 第4回 グローバル化を考える：部族的な社会に生きる人々の映像を見る
- 第5回 フラクタルの視点からの地域分析：フラクタル及びホログラフィという隠喩の使用について。ニューギニア・ハーゲン地域のビッグマンの概念の分析
- 第6回 ニューギニア・Iqwaye 族の生活世界：二進法的世界を生きること。
- 第7回 ニューギニア・Iqwaye 族の生活世界：世界認識の枠組みとしての神話とその神話の実現としての Ate 結婚。
- 第8回 グローバル化を考える4 Hip-Hop の感染力その2
- 第9回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：ダリビ族に関する概況解説。
- 第10回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：文化の弁証法—ホログラフィックな世界観
- 第11回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：生物学的な関係性を前提としない親族構築

- 第12回 グローバル化を考える5 ロックの浸透力その2
- 第13回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：神話と Habu 儀礼—ホログラフィックな世界製作。
- 第14回 フラクタルの観点からの他者理解が気づかせてくれるものについて。
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（95%）及びレポート（5%）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

8. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press. 389/W-3
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion., Cambridge University Press. 389/L-8

9. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

国際関係論 International relations

対象学科（コース）：全科学年：1－3年次

学期：前期・後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 （前半）高橋和夫・放送大学教授
（後半）玉村健志・九工大 学習教育センター准教授

1. 概要

（前半：第1回～第8回）

国際政治の風景を太いタッチで描く。本講義の二つのキーワードは、アメリカとイスラムである。アメリカという視点からイスラムを、イスラムという視点からアメリカを語る。両者の視点の交わった点に浮かび上がってくる風景を描きたい。そこに浮かび上がってくる構図はアメリカの一極覇権の衰退である。またアメリカ、ヨーロッパ、日本のイスラム教徒の実情を紹介したい。その衰退の大きな要因はイラクとアフガニスタンの戦争の負担である。イラクとアフガニスタンの経験を踏まえて、なぜ戦争が続くのかを考える。そして戦争の新しい形を紹介する。全体を通じて21世紀の国際政治の新しい風景を描きだす。

（後半：第9回～第15回）

後半は、国際機構と国際関係をテーマとします。グローバル化の進展に伴って国境を超えるような問題、一国では対処しきれない問題が世界的に増えています。そのような現代国際関係の中で国際機構がどのような役割を果たしているのか。国際機構に関する基礎的な知識を得ることを目的とします。国際機構がなぜ、いかにして存在するのかを検討するうえで、講義では国際機構が歴史上いかにして創成されてきたのか、そしてその誕生が主権国家体系にいかなる影響を受け、逆に影響を与えてきたのかを考察します。また、グローバルガバナンスの中で国際機構がどのような役割を果たし、それぞれの分野でどのような国際機構が存在するのかを見ていきます。受講者には、復習を兼ねて授業ごとにParticipation Paperを出してもらい、その授業で扱ったトピックに関する簡単な質問に答えてもらい、自分の考えを論じてもらいます。

2. キーワード

（前半）アメリカ、国力、超大国、人口、エネルギー、軍事力、イノベーション、イスラム、ロボット

（後半）国際機構、国連、EU、グローバルガバナンス、紛争解決

3. 到達目標

この授業は、「多様な社会、さまざまな文化や価値観に関して広く学び、文化や社会や健康に関する幅広い、かつ多面的、多層的知識を獲得する」ことを目標とした授業の一つである。

具体的には以下の視点への到達が目標になる。

（前半）

- 1) メディアというものを批判的に考える。
- 2) 国際問題を大国の視点と地域の視点の双方から立体的にとらえる。
- 3) 国際関係は人間関係と同じく相手の立場になって考えるという発想が重要である。
- 4) 特にイスラム世界からの見ると、どう国際情勢は見えるだろうかという視点を獲得する。
- 5) テクノロジーが国際政治の風景を変えている。テクノロジーの社会的インパクトを意識する。

（後半）

将来国際機関などの国際的な仕事に就くための、あるいは新聞や専門書などを読んで理解するための、国際社会と国際機関に関する導入的な知識を身に付けてもらうことを目標とします。国際関係やグローバルガバナンスにおける国際機構の役割や存在意義、国際機構が国際関係に及ぼす影響などについて、受講者が学問的な理解を深めるとともに、自分なりの視点を持って意見を述べられるようになることを目指します。

4. 授業計画

- 1 テレビと国際政治 / もうだまされないために

- 2 アメリカの世界戦略（1）スーパー・パワーへの道
- 3 アメリカの世界戦略（2）唯一のスーパー・パワーへ
- 4 次のスーパー・パワーは？
- 5 アメリカのイスラム / 文明の衝突を越えて
- 6 北極圏のイスラム
- 7 日本のイスラム
- 8 ロボットの戦争と「(前半) 期末試験」
- 9 国際機構の成立
- 10 国連システムと意思決定のしくみ
- 11 グローバルガバナンスと国際機構
- 12 安全保障と国際機構
- 13 人間の安全保障
- 14 欧州統合
- 15 国際機構と主権国家体系の変容

5. 評価の方法・基準

（前半）

出席、複数回の短いレポート、試験、それぞれに三分の一の程度の配点を考えている。

（後半）

出席 10%、Participation Paper（授業内容に関する簡単な問題）

30%、授業での発言（クラスへの貢献）10%、レポート 50%

6. 履修上の注意事項

（前半）

DVD教材の視聴とパワーポイントを使った講義を組み合わせることで授業を進行します。

（後半）

授業ではみなさんに色々な質問をします。受講者数によっては議論などもできればと考えています。ニュースを見たり新聞を読んだりして世界情勢や国際機構についての予めある程度情報を得ておいてください。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書と参考文献の予習、図書館などで複数の新聞の国際報道に目を通して講義に出席されたい。

8. 教科書・参考書

教科書

（前半）高橋和夫『現代の国際政治』（放送大学教育振興会、2013年）（改訂版）375.9/H-2/5154

（後半）最上敏樹『国際機構論』（東京大学出版会、2006年）（第2版）ISBN: 9784130323369

参考書

（前半）高橋和夫『イランとアメリカ / 歴史から読む「愛と憎しみ」の構図』（朝日新書、2013年）ISBN: 9784022734945

高橋和夫『世界の中の日本 / グローバル化、北極、日本』（放送大学教育振興会、2015年）ISBN: 9784595315596（新訂版）

（後半）ジョセフ・ナイ『国際紛争－理論と歴史』（有斐閣、2013年）319/N-13/9

9. オフィスアワー

備考

受講の条件は強い好奇心だけです。多量の忍耐力を常備して出席をお願いします。

グローバルイシュー概論 Introduction to Global Issues

対象学科 (コース): 全学科 学年: 1 - 3 年次

学期: 前期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位

担当教員名 水井 万里子・大田 真彦・玉村 健志・
加藤 鈴子

1. 概要

授業の背景

急速なグローバル化が進展する現代社会、身の回りの事柄であっても、地球規模でおこっている変化の中に位置づけて考えることが、21世紀を生きる人々にとって必要な力となる。グローバル化の時代であることを認識し、そこでおこっている人類共通の課題 {イシュー} について考察を深めることができるような能力が求められている。

授業の目的

この授業を通して、グローバル化について概観し、これを背景とする3つのイシューについて認識を深め、自分の意見を持ち発信する力を身につけることが学習の目的である。そのために、グローバル化の現状を前提に、①地球規模の環境変化、②紛争や貧困など世界的に広がる課題と国際社会の対応、③越境する人たちをめぐる受容の課題について、授業を通して考える。最後に、グローバルな環境に自分を位置づけ、これらの課題に対しどのように考えるのか、文章で表現する。

授業の位置づけ

グローバル教養科目の一つであり GE コースの修了要件単位となる。GE コースに所属しない学生には、人文社会系選択必修科目となる。

2. キーワード

グローバル化、サステナビリティ、国際関係、多文化受容、人権、包括と排除

3. 到達目標

- ①グローバル化の問題を理解する
- ②多様な文化・社会を理解する
- ③①②を背景とする人類共通の現象・課題を説明できる。

4. 授業計画

授業内容。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 グローバリゼーション概論 (1)
- 第3回 グローバリゼーション概論 (2)
- 第4回 国際機関と国際的課題 (1)
- 第5回 国際機関と国際的課題 (2)
- 第6回 国際機関と国際的課題 (3)
- 第7回 多文化の受容と課題 (1)
- 第8回 多文化の受容と課題 (2)
- 第9回 多文化の受容と課題 (3)
- 第10回 開発と国際的課題 (1)
- 第11回 開発と国際的課題 (2)
- 第12回 開発と国際的課題 (3)
- 第13回 グローバルイシュー総論 (1)
- 第14回 グローバルイシュー (2)
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

レポート3回 (90%)

授業内課題 (10%)

合計で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

教科書を使わないので、自分で講義を聴き、ノートを取り、配布資料を整理する必要がある。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

毎回の授業で出される予復習用のプリントを翌週提出する。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しないが、参考文献は授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

MILAiS 水曜 13:00 - 14:30

東アジア論 East Asian Studies

対象学科 (コース): 全学科 学年: 1 - 3 年次

学期: 後期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位

担当教員名 後藤 啓倫

1. 概要

●授業の背景

現在の東アジアとりわけ日本、中国、韓国は、歴史認識や国境に関する様々な問題を抱えています。しかし、日本、中国、韓国は、これら問題の解決の糸口を見つかるどころか、これらをめぐって相互の対立を深めているように見えます。日中韓がともに納得するような共通理解はすぐには出てこないかもしれませんが、今後も模索し続ける必要はあるでしょう。そこで、この授業では、近代以降の日本と東アジア (特に中国・韓国) の歴史を学び今後の日本と東アジアとのかかわりについて考えます。

●授業の目的

本授業では、近代以降の日本がどのように東アジア (特に中国・韓国) とかかわってきたのかについて学びます。主に、戦争や植民地支配に関する事実と背景を解説していきます。日本と東アジアの関係性には現在でも未だに争点となる問題が多く含まれています。東アジアの歴史を学ぶことで現在の日本を取り巻く国際環境の成り立ちを理解するとともに、自国だけでなく他国の立場からもみた近代以降の東アジアの歴史を理解することを目指します。

●授業の位置づけ

本授業では、現在の東アジア (特に日中韓) が抱える諸問題について歴史的観点からアプローチすることで、東アジアの歴史的事実に関する知識を習得し、東アジアを多角的な観点から論じる姿勢を身につけます。歴史的に考察することを通じて、現在の問題を相対化する視点を養います。

2. キーワード

日本、中国、韓国、東アジア、歴史

3. 到達目標

- ①日本と東アジアの歴史的事実に関する知識の習得
- ②歴史認識において多様な立場があることを理解する
- ③歴史的に考察することを通じて、現在の東アジアが抱える問題とそれに関する報道などを相対化して考える姿勢を養う

4. 授業計画

授業は講義形式で行なう。配布資料等を用いて補足説明をする。以下の計画は学生の理解度に応じて変更する場合もある。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近代国家日本の登場と東アジア国際秩序の変容
- 第3回 日清戦争と義和団事件
- 第4回 韓国併合
- 第5回 五・四運動と三・一独立運動
- 第6回 満洲事変
- 第7回 日中戦争
- 第8回 アジア太平洋戦争
- 第9回 日本の敗戦と東アジア
- 第10回 日韓国交正常化と日中国交正常化
- 第11回 冷戦と日中韓関係
- 第12回 現代日中韓関係 (領土問題)
- 第13回 現代日中韓関係 (歴史認識問題)
- 第14回 21世紀の日中韓関係
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験 (100%) の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

教科書を使わないので、自分で講義を聴いてノートをとる必要がある。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

授業で扱う事件や登場人物に関する参考文献をその都度紹介するので、参考文献を通じて復習し、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しない。参考文献は授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

職業と社会 Occupation and Society

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（金曜2限）

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら、政治学・社会学・行政学など社会科学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。

具体的なテーマとしては、ポスト産業社会化とグローバリゼーションの下での雇用や労働の変化等の諸課題を中心に検討する。

自由テーマによる演習方式を積極的に取り入れる。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

自由主義、多元主義、職業観、貧困

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治・社会の問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 「自由主義」をめぐる（1）
- 第4回 「自由主義」をめぐる（2）
- 第5回 現代社会の特質（1）
- 第6回 現代社会の特質（2）
- 第7回 現代社会の特質（3）
- 第8回 従来の講義の補足と展開
- 第9回 「貧困」をめぐる（1）
- 第10回 「貧困」をめぐる（2）
- 第11回 近代社会と職業観（1）
- 第12回 近代社会と職業観（2）
- 第13回 自由テーマ（1）
- 第14回 自由テーマ（2）
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は学生諸君の関心や時事、テキストなどの要素を考慮して柔軟に調整・変更する。

5. 評価の方法・基準

レポートの結果（100%）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本講義では多方面の知識（の習得）が求められる。かつ、テーマは、職業・労働という学生諸君の切実な問題に関わっている。そこで、現代社会・世界史・日本史・思想等々の基本的な概念や知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

日本語表現法 Japanese Writing

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（金曜2限）

●授業の概要

他人に伝わる文章を書く前提として、インターネットに頼らない調査の仕方および文献の基本的な読解力を身につける。特定の主題についてのさまざまな説を比較検討するやり方を学び、期末にはある程度の長さのレポートが作成できるようにする。

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。批判的・論理的思考を身につけることを目指す。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

2. キーワード

文献調査、要約、翻訳

3. 到達目標

- ・事実の検証方法、文献調査、論理的推論の方法を身につける。
- ・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

- 第1～2回 辞書を引く
- 第3～5回 文献調査のやり方
- 第6回 レポート検討Ⅰ
- 第7～8回 要約を作る
- 第9～11回 翻訳をする
- 第12回 レポート検討Ⅱ
- 第13～15回 論理的推論のやり方

5. 評価の方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

開講時に述べる。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示をする調査課題を、次回までに準備しておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学と現代Ⅰ Contemporary Philosophy Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

さまざまな具体例の分析を通じて、インターネット等を通じた情報の洪水の中で、確かな情報を見分け、議論の欺瞞を見抜く力を養う。

2. キーワード

思考停止、法令遵守

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

第1回～第3回 食の「偽装」「隠蔽」に見る思考停止

第4回～第6回 思考停止するマスメディア

第7回～第9回 厚生年金記録改竄を巡る思考停止

第10回～第12回 「遵守」はなぜ思考停止につながるのか

第13回～第15回 司法への市民参加を巡る思考停止

5. 評価の方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項

各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

郷原信郎『思考停止社会』（講談社現代新書）081/K-3/1978

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学と現代Ⅱ Contemporary Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

科学技術が引き起こすさまざまな倫理的問題を、具体的な事例に即して考察する。

2. キーワード

メディア・リテラシー、ニセ科学、リスク論

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

第1回～第2回 ニセ科学

第3回～第5回 自然志向の罨

第6回～第9回 警鐘報道の功罪

第10回～第15回 科学報道のメディア・リテラシー

5. 評価の方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項

各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと

8. 教科書・参考書

松永和紀『メディア・バイアス』（光文社新書）404/M-28

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

西洋社会史Ⅰ・Ⅱ History of European Society

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：前期・後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

歴史学の基本的な方法として、「社会史」という分野がある。これは、歴史上に生きた人々の日常生活や文化、生き方などに光をあてて、当時の社会を再構成し、理解を深めることを目的とする。政治史、経済史などの分野と違い、「社会史」には年表に表されるような事件や重大な出来事はあまり出てこない。むしろ、長い時間をかけてじっくりと社会が変化していく過程を捉えている。こうした社会史の課題として「モノ」「コト」の歴史は重要で、それぞれの「モノ」「コト」の起源、変化の過程、現代にどうつながるかをゆっくりと追いながら社会の変容についても考えることができる。

●授業の目的

西洋史における社会、技術、産業、文化について、個別トピック（例えば「庭」「銀行」「鋼」「蒸気機関」など）を各履修者がそれぞれ選択し検討する。これらのトピックは産業革命の時期にドイツで著された技術・社会関連の事典の項目である。この事典項目を出発点として、「工業化」を世界史の上で比較的早い段階で経験したヨーロッパの社会について、トピックの歴史的起源も確かめながら深く理解する。

●授業の位置づけ

本科目は選択課題によるレポート作成を中心とした歴史学上級科目で、「自由課題」演習型の授業である。まず、18世紀末から19世紀にかけて書かれたヨハン・ベックマン『西洋事物起源』の項目群から履修者が各自のテーマを選び、登録した後は、自由に調査を進める。参考資料の収集は、本学の図書館だけでなく、公共図書館や他大学の図書館を利用して行う場合がある。これらの調査をもとにプログレスレポート1、2（以下PR1・PR2）およびファイナルレポート（以下FR）の計3本を作成し提出する。

個別発表も各履修者は必ず一回以上おこない、他履修者の発表への質疑もあわせて評価の対象とする。

2. キーワード

「西洋史」、「技術史」、「科学史」、「社会史」

3. 到達目標

<レポートに関する目標>

- ①文献調査
- ②資料分析
- ③プレゼンテーション（2回）
- ④オリジナリティ：独自の議論
- ⑤プログレス（PR2とFRのみ）

<個別発表に関する目標>

- ①簡潔明瞭な発表
- ②的確な質疑

4. 授業計画

- ①テーマ登録
- ②調査ガイド（文献検索について）
- ③調査ガイド（公共図書館と他大学図書館利用について）
- ④プログレスレポート1提出
- ⑤レポート返却とコメント
- ⑥個別発表
- ⑦個別発表
- ⑧個別発表
- ⑨個別発表
- ⑩プログレスレポート2提出
- ⑪レポート返却とコメント
- ⑫個別発表
- ⑬個別発表

⑭ファイナルレポート提出

⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

プログレス・レポート1 25%（上記レポート目標①から④各25%）
 プログレス・レポート2 30%（①から⑤各20%）
 ファイナル・レポート 40%（①から⑤各20%）
 発表および質疑 5% * 総合評価60%以上が合格

6. 履修上の注意事項

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業時間内で示された調査課題の提出、および期末時に提出が求められる自由課題レポートについて、毎回の授業の時間外に調査学習し、授業時には進捗レポートを提出する。

8. 教科書・参考書

ヨハン・ベックマン『西洋事物起源1-4』岩波文庫、1999年。
 502/B-7/1-4（担当教員が管理し、授業中に閲覧した後で貸出）

9. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mizuikit@aol.com

日本政治論 I Japanese Politics, Past and Present I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリストィックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちらないためには、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 人間性と政治（権力分立の問題など）
- 第3回 自由・人権観
- 第4回 戦後社会と管理化（1）
- 第5回 戦後社会と管理化（2）
- 第6回 戦後社会と管理化（3）
- 第7回 東北アジアと日本（1）
- 第8回 東北アジアと日本（2）
- 第9回 東北アジアと日本（3）
- 第10回 補足と展開
- 第11回 琉球・沖縄と日本（1）
- 第12回 琉球・沖縄と日本（2）
- 第13回 宗教と政治（1）
- 第14回 宗教と政治（2）
- 第15回 戦争・戦後責任論

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因にしたがって、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価の方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書
プリントを配布する他、相談して決定（複数）。
- 参考書
講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

日本政治論Ⅱ Japanese Politics, Past and Present Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリストチックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちいらないように、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 自由主義論（1）
- 第3回 自由主義論（2）
- 第4回 諸文明と「国際化」（1）
- 第5回 諸文明と「国際化」（2）
- 第6回 諸文明と「国際化」（3）
- 第7回 市民社会論（1）
- 第8回 市民社会論（2）
- 第9回 市民社会論（3）
- 第10回 補足と展開
- 第11回 厚生行政をめぐる政治（1）
- 第12回 厚生行政をめぐる政治（2）
- 第13回 政治的リアリズム
- 第14回 戦後政治をめぐる
- 第15回 補足とまとめ

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因に従って、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価の方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、

オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書
プリントを配布する他、相談して決定（複数）。
- 参考書
講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

教育システム論 Educational Systems Theory

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育システムは、それ自体で自律したシステムを形成する一方、他の社会システムと密接不可分な関係を持ち、社会変動や社会的再生産に与している。本講義では、教育システムと司法システムとの接点に発生する諸種の問題を取り上げ、教育と法律とのかわりについて検証する。

●授業の位置付け

毎回テーマを決め、受講者のプレゼンテーションをもとに進める。プレゼンテーション後は、全員で討議する。

テーマは、教育や子どもに関する法律問題、生命倫理、社会政策・刑事政策などの中から班ごとに決定する。また、初回授業時に役割分担を決定し、講義期間中に3回模擬法廷を開催する。

2. キーワード

日本国憲法 教育基本法 教育権 社会政策 刑事政策 生命倫理

3. 到達目標

- ①教育と法律のかかわりについて理解を深める。
- ②調査能力・プレゼンテーションの技術を身につける。
- ③討論の技術を身につける。

4. 授業計画

授業は講義・演習形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。1回程度、与えられたテーマに関してプレゼンテーションを求め、全員でその内容について討議する。

講義期間中に3回模擬法廷を開催する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 プレゼンテーション①
- 3回 プレゼンテーション②
- 4回 プレゼンテーション③
- 5回 模擬法廷①
- 6回 プレゼンテーション④
- 7回 プレゼンテーション⑤
- 8回 プレゼンテーション⑥
- 9回 模擬法廷②
- 10回 プレゼンテーション⑦
- 11回 プレゼンテーション⑧
- 12回 プレゼンテーション⑨
- 13回 模擬法廷③
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 総括

5. 評価の方法・基準

プレゼンテーション 40%

模擬法廷 40%

討論での貢献度 20%

プレゼンテーション内容、発言内容、レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項

- ・授業の中で指示する参考文献、記事、判例等を授業時間外に読んでおくこと。
- ・その他、少年事件や教育問題に関する最新の動向に注意すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①模擬法廷で実施する判例に関しては、全員必ず一読すること。
- ②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞等に必ず目を通すこと。

8. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない。

●参考文献 授業の中で適宜指定する。

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

サスティナビリティー論 Introduction to Sustainability

対象学科（コース）：全学科

学年：2・3年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 大田 真彦

1. 概要

授業の背景

1980年代後半以降、サスティナビリティーおよび持続可能な開発の概念が国際的に提唱されている。持続可能な開発とは、一般的に、将来世代がそのニーズを充足する能力を損なうことなく、現在世代のニーズを充足する開発と定義され、世代間の公平性が強調される。20世紀を通して拡大してきた経済社会活動のあり方では、上記の定義を満たすことは困難であると見られており、環境問題への対応などに関し、グローバルからローカルレベルで様々な試行錯誤が行われている。

授業の目的

持続可能な開発に係る背景、考え方、および現在の取組みについて理解し、サスティナビリティーに基づいた社会のあり方について考える。

授業の位置づけ

グローバル時代の教養として、持続可能な開発に係る基礎知識を身につける。本授業の内容は、持続可能な開発のための教育(ESD)の一環とも位置づけられ、持続可能な社会づくりの担い手の育成にも貢献することが期待される。

2. キーワード

持続可能な開発、地球環境問題、気候変動、自然環境・生物多様性、政府政策、企業、地域コミュニティ、ライフスタイル

3. 到達目標

- ・サスティナビリティーに係る基礎知識を身につけ、持続可能な世界へ向けたグローバルな動向を理解できるようになる。
- ・日本の持続可能な社会づくりに関する現状、取組みの特性や意義を、国際社会との関係性の中で理解できるようになる。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 20世紀の経済社会発展と公害問題

第3回 「持続可能な開発」の提唱からリオ会議へ

第4回 地球環境問題と国際的枠組み

第5回 気候変動1—京都メカニズムとポスト京都

第6回 気候変動2—低炭素社会に向けた取組み

第7回 気候変動3—気候変動への適応策

第8回 自然環境・生物多様性1—概念と取組み

第9回 自然環境・生物多様性2—熱帯林の消失と保全策

第10回 自然環境・生物多様性3—日本の農山村・里山の変化

第11回 政府政策とサスティナビリティー

第12回 企業とサスティナビリティー

第13回 地域コミュニティとサスティナビリティー

第14回 ライフスタイルとサスティナビリティー

第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

中間レポート50%、期末レポート50%で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

普段から新聞等に目を通し、関連するトピックに関する問題意識を育てておく。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

キーワードに基づき授業の予習を行う。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

佐藤真久、阿部治編著『ESD入門：持続可能な開発のための教育』（2012）筑波書房371.5/S-3

トレイシー・ストレンジ、アン・ベイリー著；OECD編；濱田久美子訳『よくわかる持続可能な開発』（2011）明石書店ISBN: 9784750334844

9. オフィスアワー

若松キャンパス（1030号室）

授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

ota@ltc.kyutech.ac.jp

選択日本事情A Elective Japanese Culture and Society A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

留学生と共に日本の社会や文化等に関する知見を広め、考えを深める。留学生の出身国の事情も知り、異なる文化を理解する視点を養う。異なる背景を持つ人と意見を出し合って協働するための行動力を身につける。

2. キーワード

「日本社会」、「文化」、「討論」、「異文化理解」

3. 到達目標

- ①相手の理解を確かめながら話す。
- ②背景の異なる相手に積極的に自己開示する力を持つ。
- ③異なる文化、社会について理解する視点を持つ。
- ④日本の社会や文化について考えを深める。
- ⑤グループで協働して調査、発表する姿勢を獲得する。

4. 授業計画

学生自身が興味のある話題を取り上げ、皆で討議する問題を提起する。討議のための資料を作成し、皆に討議資料を説明する。グループで意見を出し合い、発表する。自分の意見をまとめ、振り返る。

- | | |
|---------|-----------|
| 第1回 | アイスブレイキング |
| 第2～4回 | 文化と生活 |
| 第5～7回 | 教育と社会 |
| 第8～9回 | 大学生生活 |
| 第10～11回 | 社会の課題 |
| 第12～14回 | 日本社会再考 |
| 第15回 | 試験 |

5. 評価の方法・基準

発題と資料作成（20%）、毎回のノート（30%）、試験（20%）、討論への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

グループ学習形式で行う。積極的に自己を振り返り、意見を出すこと、他人の考えを深く知る姿勢を持つこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

テーマについて事前の課題を考えて授業に臨む。

8. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない

9. オフィスアワー

月曜日3限

選択日本事情B Elective Japanese Culture and Society B

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

留学生と共に日本の社会や文化、歴史等に関する知見を広め、考えを深める。留学生の出身国の事情も知り、日本について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「日本社会」、「文化」、「討論」、「異文化理解」

3. 到達目標

- ①日本社会や文化について外国人にも分かるように説明する。
- ②討議に積極的に参加して考えを深める。
- ③異なる文化、社会について理解する。
- ④日本の文化、社会について各国との比較を交えて、まとまりのある文章を書く。

4. 授業計画

- | | |
|---------|------------------|
| 第1回 | アイスブレイキング：国のイメージ |
| 第2～3回 | 生活 |
| 第4～5回 | 少子高齢社会 |
| 第6～7回 | 教育 |
| 第8～9回 | 企業と労働 |
| 第10～11回 | 科学技術と人間 |
| 第12～13回 | 自然と人間 |
| 第14回 | アジアの未来 |
| 第15回 | まとめ |

5. 評価の方法・基準

レポート（60%）及び毎回提出のノート・授業への参加度（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

グループ学習形式で行う。前の週に配布する資料をよく読んで授業に臨むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

前の週に配布する資料をよく読んで授業に臨むこと。

8. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない
- 参考書

1) 留学生のための時代を読み解く上級日本語 第2版（スリーエーネットワーク）810.7/M-41/2

9. オフィスアワー

月曜日3限